



縁起物のひょうたん作品で 人々を魅了

木元康夫さん(63歳・中央)

末広りの形状をしていることから、古来より縁起の良いものとされてきた「ひょうたん」。この植物を自らの手で栽培し、ランブシードやオブジェなどに加工して、見た人のハートをわしづかみにしているのが木元康夫さんです。木元さんがひょうたんの栽培と加工を始めたのは49歳のとき。友人から種をもらったことがきっかけでした。自宅の庭で育てたひょうたんを眺めていると「少し手を加えると、きれいなものになるかもしれない」というアイデアが浮かんだそうです。試しにカラースプレーで色を付けてみることに。すると、無機質だったひょうたんがユニークなものを生み出したのです。「何でもおもしろい表情を見せるのだろっ。1年中楽しめるし、これを新たな趣味にしよう」。木元さんはそれ以来、育てたひょうたんに装飾を施すことが楽しみになりました。



本格的に作品づくりに力を入れるようになったのは、それから3年後のことでした。所沢市

で開催されたフリーマーケットで、研ぎ出し技法(塗料を重ね塗りしたもの)をサンドペーパーなどで表面を削り、独特の模様を浮かび上がらせる技法)を使ったひょうたん作品に出会ったのです。直接店主からこの技法のノウハウを教えてもらった木元さんは「自分にもできるかもしれない」と挑戦を決意。その後、インターネットや関連書籍を参考にしたり、作品展に何度も足を運んだりしながら、独学で自身の腕を磨いていきました。

試行錯誤を重ねること8年。そのころには自分自身で満足いく作品ができる腕前に。平成22年から市の文化祭に毎年出展し、作品を見た人が「何でもできているの」「カラフルですてき」といった驚きと称賛の声を上げるそうです。今では研ぎ出し技法に加え、「透かし彫り」「貝殻螺鈿貼り付け」「沈金技法」などさまざまな技法を駆使して数多くの作品を生み出しています。木元さんはひょうたん作品の魅力について「一つの作品に1年以上かかることもあり、出来上がると愛着が湧いてきます。この世に一つしかないものを作ることにやりがいを感じますね」と笑みを浮かべながら語ります。

今年の文化祭に向けて既に準備を進めている木元さんは、現在ちりめん細工とのコラボレーション作品を考案しているそうです。「あっと驚く作品で、ひょうたんの素晴らしさを広めていきたい」縁起物を使った芸術作品で、木元さんはひょうたんの奥深さを伝えていきます。

はじめまして



平成26年4月生まれのお子さんを募集します

○2月2日(月)～27日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。 ○応募者多数の場合は、3月3日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成26年2月生まれのおともだち ★★★



菅田 昇陽ちゃん(城西) 平成26年2月8日生まれ 父・康幸さん 母・久美子さん 「早くキャッチボールしたいね☆」



朝見りい咲ちゃん(小敷田) 平成26年2月26日生まれ 父・裕義さん 母・美城さん 「りいちゃん、優しく元気に育ってね♡」



渋沢 一斗ちゃん(小針) 平成26年2月8日生まれ 父・裕也さん 母・慶子さん 「一本筋の通った男に!!」



島村 心陽ちゃん(持田) 平成26年2月17日生まれ 父・貴裕さん 母・咲さん 「元気に大きく育ってね♡」



堀 高翔ちゃん(藤原町) 平成26年2月5日生まれ 父・智一さん 母・景子さん 「いつも笑顔 我が家のアイドル☆」



新井 爽太ちゃん(富士見町) 平成26年2月17日生まれ 父・孝夫さん 母・里美さん 「清々しく爽やかであれ。」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

東旭株式会社

独自の技術とこだわりで高品質の節句品を提供



会社プロフィール

代表取締役社長 小菅 克祥 【事業内容】 節句品(雛人形、五月人形、こいのぼり)の製造、販売 【住所】 藤原町1-6-1

子供たちの健やかな成長を思う気持ちが入められたこいのぼりやひな人形。今月は、日本でも有数の技術で節句品を製造・販売している東旭株式会社を紹介いたします。 同社は正時代に創業し、足袋を納品するための袋や紙製のおもちゃなどを扱ってまいりました。高度経済成長期を迎え、節句品が各家庭に普及しているのをビジネスチャンスと捉え、こいのぼりの製造をスタート。しかし、当時は綿を素材としていたため、雨に濡れるとすぐに色がにじんでしまう他、傷みが早いなどの問題があったそうです。そこで、繊維の大手であった東旭株式会社と協力し、軽くて破れにくく、そして色落ちしにくいナイロン製のこいのぼりを日本で初めて製作しました。画期的なこいのぼりの誕生が話題を集め、瞬く間に大ヒット商品となったのです。

それでも、耐用年数が約3年と短く、お客さまからより長く使用できるものを求める声が寄せられたため、さらに丈夫な素材の研究を開始。さまざまな繊維を調査・研究した結果、強度のあるポリエステル繊維を使ったこいのぼりを開発し、8年以上も使用できるようになったのです。今では、全国の半数以上の百貨店で販売されており、品質・売り上げ共に国内トップクラスを誇る商品となりました。 また、ひな人形も同社の主力商品。製作には、顔の表情や衣装、道具に至るまで一切の妥協を許しません。さらに、着物を美しく見せるためには、全体のバランスが重要なため、胴体部分は自社で製作するのがこだわりです。伝統の技術と知識を生かしつつ、徹底したこだわりのもとで製作したひな人形は、お客さまから大変好評で、その品質は京人形と肩を並べるほどのです。 代表取締役社長の小菅克祥さんは「お客さまのことを第一に考え、「東旭の商品を買ってよかった」と思ってもらえる高品質の節句品を提供し続けたい」と力強く語ります。 伝統を守り、わが子をお客さまのニーズに沿った商品を生み出している同社。節句品の総合メーカーとしてこれからも日本の伝統産業界をリードしていくことでしょう。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。 ◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で 広報広聴課へご応募ください。

- 俳句 城西 西田吉之助 柳箸作り新年迎えけり 谷郷 吉野 六郎 ひととせの思い浮かべつ年賀状 富士見町 金井しづ子 十の字に切れ白菜ふくらみぬ 忍 飯島 素子 老いて尚夢を追いかけて初みくじ 南河原 今村 文女 柚湯の香仄かにまとい寝髪梳く 前谷 島田奈智子 豆を煎る母の頭にに鬼の面 門井町 嶋田 茂 古墳より妻と祈るや初日の出 城南 橋本千枝子 それなりに生きてゐますと賀状くる 矢場 鈴木かづの 大晦日不安だらけの平和かな 前谷 町田 貞子 買はぬのにちらしのおせち比べみる 持田 伊藤 洋子 夕日背に土手の散歩や枯尾花 谷郷 加美 宏孝 柿の実を誰も取らずに鳥の餌 持田 二瓶 弘子 我に似ぬ孫の達筆筆始め 持田 丸山 麟一 孫達に囲まれているクリスマス 持田 小倉 繁三 誕生日赤丸記す古曆 荒木 藤田 栄之 ガラパゴスなど自虐の襦袢かな 荒木 藤田 明枝 走り根の太きにふれて初詣 城西 鈴木 正夫 初詣住み慣れにけり蔵の町 荒木 森田 静 父の手の温み痛みも知らず冬 荒木 高澤よね子 新調の畳の匂ひ小鳥来る (三沢 一水 監修)